

保護者の力は大きな宝



岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みがけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651

県連リモート研修会

保護者会の役割学ぶ



保護者の力はすごいと語る吉田康治さん

県連協は保護者リモート研修会を6月26日にオンラインで開催し、県内の学童関係者173人が参加しました。各地域からコロナ禍で保護者会の開催が困難になっているとの声が寄せられており、学童保育の魅力や保護者会の役割について知ってもらうことを目的に企画しました。たくさん保護者に気軽に参加してもらえよう、午前中に2

第二講座は、「父母会はプロフェッショナル集団」～みんなの力を最大限発揮して～と題して、緑が丘学童保育クラブ（盛岡市）保護者の吉田康治さんが発表しました。吉田さんは役員になって1年目は会議でひと言も発言することができず、役員を辞めようと思った

講座を行う日程で実施しました。

第一講座は「私たちは子育てのパートナー」と題して、武田恵実指導員（滝沢市・菓子学童保育クラブ第二）、比内沙耶火指導員（陸前高田市・たけのこ学童クラブ）が発表しました。親でもない学校の先生とも違う「第3の大人」とも言われる指導員。入所したばかりの保護者はその距離感に戸惑うこともあるようです。両指導員は、指導員とはどういう存在で、日頃どんな仕事をしているのかを分かりやすく解説。「指導員は保護者と苦楽をともにしながら、一緒に子育てをしていくパートナー。小さいなことでも遠慮なく話してほしい」と呼びかけました。

と話し、「保護者同士の声かけや、明るい雰囲気づくりが大事だ」と話しました。のちに副会長になったもののコロナ禍で数名の役員だけで様々なことに対応することが続き、このままでは運営が難しくなるとの危機感から保護者会の組織改革

に取り組んだことを紹介。「みんなが参加できるように役割を整理し、必ず何らかの仕事に就いてもらった」と話しました。当初は上手くいくか不安だったものの、徐々に芽がではじめ、保護者の力が発揮されていったといい、「保護者会はプロフ

全国指導員学校東北会場

あたり前を問い直す

指導員の資質向上を目的とした第47回全国指導員学校東北会場（全国連協・東北各県連協主催）は7月10日にオンラインで開催されました。東北を中心に全国の指導員約1000人が参加。岩手県からは28

4人が参加しました。

開会行事では全国連協の千葉智生事務局次長が基調報告を行いました。2021年の実態調査では、学童保育を利用する3年生以上の児童が初めて減少に転じたことを報告。「コロナウイルスの感染リスクを懸念し、自治体や運営者が受け入れ人数を減らしたり、保護者が退所を選択したのではな

いか」と分析しました。全体講演は、東京都立大学の杉田真衣准教授が「子どもとともに生きるために」と題して講演。杉田氏は「子どもは日々を懸命に生き抜いている。なかには困難を抱えている子もいる

エッショナルの集団。みんなの力を結集すればすごいことができる。それは大きな宝。それを生かしていくことが大事」と充実感をにじませ、「私たちの経験がみなさんのクラブの参考やヒントになれば、うれしい」と期待しました。

が、その姿は見えにくい」と指摘。「援助する側が、性病気、障がい、職業、経済や家族の状況などいろいろな人がいると知ることが、子どもを理解する上で土台となる。自分のあたり前を問い直してほしい」と述べました。また、困難を抱えた子どもにとって時間、空間、人間関係づくりが大切と述べ、「学童保育は、まさにその全てがそろっている。何かができなくてもいい、ただ、聞いて見守ることが子どもを救う」と参加者に語りかけました。午後は7つのテーマに分かれて分科会が開催され、参加者はそれぞれに学びを深めました。今回の指導員学校は全国連協、東北の各県連協が協力して運営し、岩手県連協は2分科会の運営を担当しました。



基調報告を行う千葉智生事務局次長